

# 平成26年度 布佐中学校 学校評価 教職員による自己評価集計

H27.1.22

- 各評価の観点について実践を振り返り、評価欄の数字に○をつけてください。  
 4:十分重点として認識し、達成に向けた努力をしている      3:重点目標として認識し、実践している  
 2:重点としての意識は低く、個別的な努力をした。      1:ほとんど認識がなかった。
- 各項目の「自己評価・提案」の欄には領域に対する自己評価、学校改善(2,3学期)に向けた提案を書いてください。

※ 自己の取り組みに対する反省、評価でなく、1学期における布佐中学校の教育活動全体をみてそれぞれの項目について 自分としてどう評価するのか、という観点から記入してください。

平成26年度学校教育目標

『自ら学び、共によりよく生きる生徒の育成』 「自主性」「共生」

平成26年度の重点

- 主体的によりよい生活・学習のあり方を求め、思考し、的確に判断しながら行動(表現)できる生徒を育てる。
- 互いの価値観を認め、仲間と学び合い支え合いながら、(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒を育てる。
- 家庭・地域と連携し、三者一体となって生徒を育てるとともに、(地域が同一である)小学校との一貫教育を推進していく。

今年度学校経営方針「子どもの自主性と共生的な態度を引き出す教育課程の創造」

【5つの柱】

- 言語活動の充実・授業での実践、特別活動での実践。
- 教職員の協働……目的・目標を全職員で共通理解し、同じベクトルに進む。
- 共生的な態度……互いの価値を認め、支え合い、助け合う態度。
- 小中一貫……一貫カリキュラムの整備による学力向上、中一ギャップの解消等。
- 人材育成……教職員の指導スキルとキャリアアップを図る。

【3つの重点活動】

- 自ら課題を見つけ、解決にむけて思考し表現する力やコミュニケーション能力を培うカリキュラムの作成。
- 学校内外で他者に関わる活動、人や地域に貢献する活動を進める。
- チーム布佐として協同・協働できる組織。

めざす生徒像

- ① 学力・生活力の向上をめざし、その方法を考えて自己実現に向けて全力で努力できる生徒。
- ② 学校や自己の所属集団に誇りを持ち、仲間と協力して一生懸命に諸活動に尽くせる生徒。
- ③ 地域を愛し、地域と協働しながら、よりよい社会の形成に向けて参画できる生徒。

めざす学校像

- ① 学校を核として、保護者・地域と連携しながら、みんなで作る地域の学校。
- ② 先生も生徒も通うことが楽しく、日々を充実した気持ちで過ごせる学校。
- ③ 地域コミュニティの中核としての役割を果たせる学校。

## ○今年度の重点について

重点	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学 期末	1学 期末
		4	3	2	1		
1	主体的によりよい生活・学習のあり方を求め、思考し、的確に判断しながら行動(表現)できる生徒を育てる。	4	3	2	1	95%	91%
		5	15	1	0		

※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策

- 授業研究を進め、生徒の興味をひく授業作りの必要がある。主体的に行わせるために、興味や動機づけが必要だと思う。
- 協力できる生徒は増えてきた。あとは自ら動くように仕向けていきたい。
- 言語環境の整備に努力したい。
- 授業開始前に授業を受ける姿勢が整っているか、確認できていない場合は、その場で指導することを徹底した。2学期も続けていきたいと思う。
- 主体的な学習活動のために、グループ活動を中心に行う授業展開を行う。
- つまり特活領域、目標の認識はしていても、方法論の詰めが十分に議論されておらず、方針と計画がない状態。学活も生徒会も個々の教師の個別実践に依拠するところ大である。
- 授業、学級等で起こる様々な問題に直面した時に、すぐに答えを明示せず、生徒のみの話し合いで解決するように指示をしたりした。
- まだ指示を待つ姿が見られるので、自分で考え行動できるよう、我々が接し方を考えていかなければならない。
- 常に意識して行動することができなかった。
- 小グループでの学習を、どの授業で取り入れると効果的か見直し、2学期以降さらに展開させたい。

## ※2学期を終えて

- 小学生から少しは中学生らしくなった(自ら考えて行動する場面が増えてきたが、言葉や態度面で自分を律することはできないので、その都度気づかせていくしかない。)
- 自らというより、待っている様子がまだ見受けられる。「考えさせる」+「実践させる」ことをより多くしていかなければならないと思う。
- 生活面の改善等、リーダーに助言しながら、生徒の手で考え、行動できる場面を増やせると良いと思う。
- 学習目標を焦点化し、流れを生徒に周知することで、主体的に取り組むことが出来ている。
- 2学期から授業に予習プリントを作成し、ほぼ毎時間宿題としてやってみた。最初は、やらずに直前に友だちのものを写す生徒が多かったが、だんだんと自らやってくる生徒が増え、終盤では「予習プリントないの?」と言われるようになった。着実に予習する習慣が身につくと感じる。
- 「自ら考えて」という点ができるようになってきている。また、その点を重視する指導・授業が増えているように感じる。
- 授業の中で、言語活動のあるものを多く取り入れ、自身を表現することを生徒たちは学んでいる。

2	互いの価値観を認め、仲間と学び合い、支え合いながら(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒を育てる。	4	3	2	1	2学期末	1学期末
		4	12	5	0	76%	95%

### ※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策

- 道徳や特活を用いて、支え合うスタイルを学年で統一して行うべきである。
- 地域ルームとの連携を密にする必要がある。
- 部会や林間学校を通して、仲間意識や人のために行動する力が育っていると思う。2学期は、学校のリーダーとして、一人一人が周りの人のために行動できるよう支援していく。
- 有用感を養うため、全ての子に役割や仕事を与える。
- 授業も部活も、学年活動も本校教師は、全員がこの重点を認識し共有できているものとする。
- 「協力」し合える関係を作っていくことができるよう、もっと生徒の心の声に耳を傾けなければと思う。
- 地域の特性があるためか、生徒たちがお互いに仲間を認め合っている部分が多いため、比較的指導しやすいと感じている。
- ほめることで他人のために貢献する喜びを生徒に感じてもらおうとした。

## ※2学期を終えて

- 学び合いや教え合い学習はできるようになってきた。
- 授業の工夫等により良くなってきている。
- 褒めることを重視し、他人の為に何かをすれば良いことがあるということを学ばせる。
- 特別支援の生徒は、自分や友人(特支)の実態をよく知っており、その特性を互いに無意識のうちに埋め合うことをしている。
- 2学期は、体育祭、合唱祭など協力が必要とされる行事が多くあったが、正直、自分の仕事をこなすだけでやっとだったというのが反省である。特に、体育祭では、思うように生徒を行動させることができず、自分がやることで済ませてしまった点がある。もっと視野を広く持ち、どの生徒を指導するのか、適切な指導法は何なのか考えていきたい。
- まだ他人任せが多い。1つの問題全体の問題ととらえられるように教員がしていくべき。

3	家庭・地域と連携し、三者一体となって生徒を育てるとともに(地域が同一である)小学校との一貫教育を推進していく。	4	3	2	1	2学期末	1学期末
		7	9	3	1	80%	73%

※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策

<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭・地域との連携はとても良いと思うが、学校とは、特に指導面でのつながりがなく、小学校から上がったばかりの頃は、生徒も戸惑ったり、6年間でついってしまった習慣が抜けず困ることもある。</li> <li>この夏の取り組み(地域ルームによる宿題の手助け)は素晴らしいと思う。そこに家庭(保護者)が関われる取り組みがあるとより充実するのではないか。</li> <li>地域との連携がうまく取れるようにしてほしい。</li> <li>部活において、家庭と連携を密にとれているが、地域との連携は、まだ自分の中で意識が薄いのでこれから考えていきたい。</li> <li>まだ具体的なことが見えていない。</li> <li>特に地域とのつながりが大きいと思う。</li> <li>家庭と地域とのつながりは重視したものの、小学校との連携は図れなかった。小学校の現状を知る必要がある。</li> </ul>
---

※2学期を終えて

<ul style="list-style-type: none"> <li>意識はあるが、活躍の場が無かった。</li> <li>自由に授業参観できる期間があってもいいのではないかと思う。</li> <li>小学校の先生や児童との関わりを、自分から積極的に作ることが出来ず、小中一貫の意識が低かった。</li> <li>学校地域ボランティアの方々や教員や生徒をつなぐ機会が作れると良いと思う。</li> <li>郷土芸能と吹奏楽を代表する団体が、地域交流の一貫として各地のイベントに参加できている。団体という枠にとらわれず、祭の実行委員に布佐中学生が参加するなどもっと積極的に進んでもよい。</li> <li>保護者対応する機会は少なかったが、朝、欠席の連絡の電話をとり、正しく伝えることはできた。この点はまだまだ経験が少なく、苦手に感じる点である。小学校との一貫教育に関しては、小学校の理科教材を研究し、授業の最初などでこんなことを習ったよね、と呼びかけていたりするが、まだ明確な方法が分からない。</li> <li>家庭との距離があるのも事実と思われる。生徒-教員は十分だが、教員と保護者との連携に一部偏っている。</li> <li>副担任、教科担任、部活動顧問として、保護者の方と積極的に関わろう努めた。しかし、地域との連携に対して、自分自身が意識が低いので、地域の方とも積極的に関わっていきたくと思う。</li> <li>「一貫教育」の号令がなくとも、職員は各自の実践にかかわる分野で、地域の人々や小学校とつながりを作り、意識的に対応を積み上げていく必要がある。</li> </ul>
---

手だて	領域	NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価				2学期達成率	1学期達成率	
				上段=評価	下段=人数					
				4	3	2	1			
言語活動の充実・共生的な態度・職員の協働・小中をつなぐ・人を生かす	校学内力研究上の推進との授業改善	1	1時間の授業の形態、活動方法の工夫(話し合い活動や討議、発表)をおこなっている。	4	17	0	0	100%	90.9%	
		2	目標にそった授業改善に向け、授業方法や内容の工夫をしている。	8	13	0	0	100%	95.5%	
		3	1時間の授業の中で、「深める」活動(思考をする)を取り入れている。	5	14	2	0	90%	86.4%	
		4	1時間の授業成立のため、単元計画全体の工夫を図っている。	5	14	2	0	90%	90.9%	
		5	同一教科による学年間をつないだ言語活動の充実に向けた取り組みを行っている。	6	12	3	0	86%	77.3%	
		6	読書・読書活動の充実のための取り組みを推進している。	3	7	9	2	48%	50.0%	
	※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策									
			3	毎時間なるべくグループで考える活動を取り組もうと意識し、実行している。しかし、どの場面で、また、何について考える活動を入れることがベストなのか、もっと工夫が必要である。						
			3	できる時とできな時がある。						
			3	3については、深める活動を取り入れてなかったため、2学期は、思考力を育成する活動を積極的に取り入れた。						
		6	図書担当として、生徒にリクエスト図書を募るなど、読書に対する興味関心を高めている。							
		6	Basicに読書の週を設けている程度では明らかに不足。指定図書を調べる活動を授業で導入し、リサーチのために図書を利用する習慣を身に付ける必要あり、これをもとに読書生活と部活が両立する中学生生活を構築することを我々が手だてとして考えていかなければならない。							
		6	時間に追われ、Basicに取り入れているだけになってしまった。							
			校内研修が充実していて、とても勉強になる。							

※2学期を終えて

1	話し合いや討議が学年別に差があるのではないかと、授業を見ているとすごく感じる。どんどん話し合い、コミュニケーションのとれる生徒の育成を!
2	生徒の実態に合った授業改善が今後も必要だと感じた。
4	まず、単元計画を立てることに難しさを感じる。計画通りに授業が進まないことが多い。早く進めていい場所、しっかり力を入れなくてはいけない場所の区別がまだできていないと感じる。進度にも影響が出るのではないかと不安になることもあるため、より計画的に進める力をつけたい。そのためには、より先を見越した教材研究が必要であると思う。
4	単元計画の見直し、工夫は定期的に行いたい。
5	教科部会の回数が少ないので、意識的に声を掛け合いたい。
6	Basicがあるので、ゆっくりと本を読む時間が減少している気がする。一か月集中して朝の読書時間など設けてもよいのではないかと。
	校内研修を通して他教科でもつながりを持った取り組み(言語活動)などができていると思う。
	授業は工夫して考えながらやりましたが、イマイチ漢字テストや確認テスト、定期テストの点が思ったより伸びなかった。三学期は、更に工夫を重ね一人一人の力を伸ばす努力をしたい。
	国語科として、日頃から本を読むことの大切さを生徒に伝えていき、読書を推進していけるようにしたい。
	教科指導を通じた図書紹介、(各単元に必要な図書の購入計画が必要)読書をふまえた学習指導
	読書は難しい。

					2学期末	1学期末	
7	特別活動(学校行事、生徒会、学級会、学級活動)での話し合い活動を進めている。	9	11	1	0	95%	95%
8	課題発見、解決型の総合的な学習を進めている。	9	10	1	0	95%	86%
9	一人一人のよさを認め、人間関係形成のできる生徒指導を進めている。	7	12	0	0	100%	91%
10	ボランティア活動等の地域貢献により自己肯定感の高まる活動を推進している。	3	8	9	0	55%	68%
11	生徒の自主的な活動を基盤とした地域貢献活動を推進している。	4	9	5	2	65%	73%
12	一人一人が所属感・存在感をもてるような学級経営の工夫により、生徒が充実した生活を送っている。	5	14	1	0	95%	95%
13	学級活動等の活性化により、生徒の主体性の育成を目指している。	3	15	1	0	95%	86%
14	教育活動全体を通して、生徒の豊かな心を育む努力をしている。	6	13	1	0	95%	91%
15	道徳で培った道徳的判断力や行動力を、生徒の生活や他の教科の中で生かそうとしている。	2	13	5	0	75%	77%

特別活動・道徳

※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策

7	学級会や林間などを通して、話し合う場が多くあり、話し合いを重ねることに目的に合った活動ができるようになってきている。一つの課題に全員が関わり考えることによって、更に仲間意識や認め合う心が育っているように感じる。
8	特別支援における課題発見学習の方法を模索している。研修などを重ね、努力したい。
8	ベースがしっかりしているので、とても進めやすい。
9	特に布佐中の先生方は、この部分を大切にしていると思う。
10	ボランティアも仕掛けが必要、啓発は職員の役目。
10	自分自身参加できていない。
11	部活動とのかねあいで、ボランティア参加がうまくできない。
13	教師主体の部分もまだ自分にあるので直していきたい。
15	なかなか結び付けずにできないでいる。
15	道徳の時に、他教科や生活での関連まで考えた授業づくりがあまりできなかった。今後は、これからのことを考えて、生徒にどんな力を養えばよいかをはっきりさせて授業したい。
	学級会の方法を統一した方が良いと思う。
	学級会の方法を学年で統一すべきでは、そうすれば生徒総会も全体的な流れを生徒は理解しやすい。
	生徒の指導のあり方についての校内研もやるべき。

※2学期を終えて	
7	学級会の流れの統一、議会をやったことのない生徒もいる。
7	学習部会の顧問として、さまざまな取り組みを促してきた。話し合いの場では、方向がズレた時にどう修正するかに悩み、失敗することも多かったが、挑戦することができたことが大きな収穫であった。先輩の先生に教わりながら、更に自分自身のスキルを高めていきたい。
7	現在のカリキュラムでは、話し合い活動を深める時間を作る努力が必要で、難しいが校内研で学んだ2年生の取り組みを取り入れたいと思う。
10	10は部活動との絡みで難しいと思う。
11	吹奏楽部を中心として、地域の祭りや催しに積極的に参加していると思う。
15	特支では、道徳でなく、SST(ソーシャル スキル トレーニング)を実施し、言語活動の充実を図った。
	道徳の時間は、個別支援に入っているのも一度も授業に参加したことはなかった。特別活動は初めて部会の広報部会を見て、生徒たちと授業以外のつながりをつかませてもらった。
	陰の努力、どんな些細なことでも成長したところ、頑張っているところなどを見落とさずに、その場で褒めたり、皆の前で伝えるよう心掛けてきた。これからも意識していきたい。

					2学期末	1学期末					
言語活動の充実・共生的な態度・職員の協働・小中をつなぐ・人を生かし・人を育てる(職員・生徒)	生徒指導・教育相談・長欠対策	16	問題行動等が発生した場合、職員相互がチームにより対応し、管理職や関係職員への報告・相談等を行いながら、早期解決に努めている。	19	1	1	0	95%	100%		
		17	生徒に自律的な規範意識を育てるよう、学年、学級、分掌等での活動推進に努めている。	9	11	1	0	95%	95%		
		18	特に課題を抱えた生徒に関する情報は、学校職員の共有すべき情報として伝える、相談するなどの「つなぎ機能」が生かされている。	10	11	0	0	100%	95%		
		19	長欠・教育相談に関する指導は、必要に応じ、他校種、外部機関と連携するなどチームワークで対応しようとしている。	5	13	2	0	90%	100%		
		20	生徒が自ら考え、自主的・自律的に行動でき、みずからの言動に責任を負うことのできる生徒を育成するための指導を行っている。	4	17	0	0	100%	91%		
		21	社会の一員としての意識(公平・公正・勤労・モラル等)を身につけた生徒を育成するための指導を行っている。	6	14	1	0	95%	82%		
		22	保護者と連携して、粘り強く生活習慣を身につけた生徒を育成するための指導を行っている。	3	11	2	0	88%	84%		
		23	いじめ根絶に向けて、全職員でいじめ防止基本方針を確認し、全職員で連携して取り組んでいる。	8	11	2	0	90%	86%		
		※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策									
		16	素早い行動がとれていると思う。								
17	全員の指導がもう少しそろった方が、より効果的だと思う。										
18	共有すべき情報が、学年間や学校間できちんと伝えられているので、全員で対応、指導でき、チームワークが良いと感じる。										
20	20.21は全生徒に指導することが出来なかったため、2学期は全生徒に、その可能性があり得ることを前提に指導していきたい。										
21	教師の学校での喫煙を生徒が話題にしているが、生徒や保護者への不信感につながらないか心配である。										
	一人一人の生徒を職員がよく理解している。										
	生徒指導会議などを重ね、伸長策、改善策を図っている。										
	生徒の氏名を、小学校のように、下の名で呼ぶのはどうかと思う。本人も、自分のことを「私は・・・」と言わず、「ミホは・・・」とか、下の名で答えたりする。先生方も、下の名で呼ぶので、「高校入試の時(面接)では」と指導するのを聞いて、それなら姓で名前を言うようにした方が・・・と思う。私立の小中では、下の名前では呼ばないと聞いている。										
※2学期を終えて											
16	相談員の野口先生、高橋先生の協力のお蔭で、本当に相談できる生徒が増えてきたる周りとの連携もよく出来ている。										
19	相談室登校の人数が増え、その中でも適応できずに苦しんでいる生徒がいるため、再度、相談室の運営方法を考える必要がある。										
21	授業中の態度の悪い生徒からのからかいの指導が不十分であると認識している。恐れずに挑戦し、きちんとフォローすることが自分にはまだ足りない。										
	チームワークはよいと思う。										
	長欠担当として、担任、相談員と協力して対応している。部外機関との連携も密にし、1人でも多くの生徒が教室に戻れる雰囲気、環境を作っていきたい。										

					2学期末	1学期末			
健康管理・安全管理	24	生徒に体力・健康の自己管理ができるよう、治療のすすめ、生活習慣などの指導を行った。	2	19	0	0	100%	91%	
	25	災害、危険防止の観点から危険予知能力育成、安全管理など適切に行っている。	4	16	1	0	95%	91%	
	26	学校保健計画・学校安全計画を確認し、計画的に指導している。	3	14	4	0	81%	91%	
	27	PTA活動の内容を理解し、積極的に取り組もうとしている。	1	13	7	0	67%	59%	
	※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策								
	24	生徒の小さな変化に気づき、体調や生活習慣が変わっていないか、常にアンテナを立てて観察するよう心掛けている。							
	25	万が一のことを考えて、臨機応変に対応できるための知識を身に付けていきたい。							
	27	PTAの研修会など、動きを職員室に紹介していただけるとありがたい。							
	27	PTA活動への取り組みは、自分があまり行うことができていない。							
	※2学期を終えて								
24	部活動の怪我や実験中の事故が起きないように注意を払っているが、視野が狭く管理しきれない点もあった。								
24	治療勧告のお知らせや受験準備を機会に受診をすすめる話を再度していきたい。								
26	体育祭当日、職員室、玄関、B棟入口が施錠されず、保護者が勝手に入るなど、必ずしも安全計画、危機管理の意識が職員に足りていない気がする。								
27	地域ルームなど活用していると思う。								
27	積極的な活用はできていない。								
27	PTA活動の内容を把握できずにいたので、これからは理解に努め、積極的に取り組むよう心掛けていきたい。								
					2学期末	1学期末			
特別支援教育	28	特別な支援を必要とする生徒に対して、授業の中で配慮を行っている。	9	12	0	0	100%	100%	
	29	特別支援教育のための校内委員会が機能し、個別の支援を進めている。	6	12	3	0	86%	86%	
	30	特別な支援を必要とする生徒について個別指導計画や個別の教育支援計画を適切に作成しようとしている。	7	9	5	0	76%	86%	
	31	特別な支援を必要とする生徒について医療、福祉(児相など)関係機関との連携を図ろうとしている。	3	12	4	1	75%	91%	
	32	特別支援学級の生徒との交流学习を図っている。	7	11	2	0	90%	86%	
	※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策								
	28	授業中、考える時や書く時など、個人で作業する時に、支援を要する生徒のところへ行くよう心がけ、ついていけるよう支援している。							
29	支援は懸命に行われているが、校内委が機能していると言えるのか不明。支援計画は遅いでしょうか?								
32	給食や技能教科で交流が図れた。								
	学内のリーダーとして、生徒指導主任や養護教諭、カウンセラーと連携がとれ、個の指導ができた。								
※2学期を終えて									
28	生徒の情報をこまめに交換し、対応している。								
28	2学期になり、特別支援学級の生徒が、授業に来てくれる機会が増えた。机間巡視の際に声をかけるなど、基本的なことしかできなかったが、配慮してできたことである。								
30	特支の生徒の目標が具体的に分かりづらい、目標が分かれば、もっと指導しやすいのでは。								
32	特支の生徒をクラスに持たない、特支のクラスに授業がない先生は交流していると思えない。もっと声をかけて欲しいと思う。								
32	個々の生徒の特性に応じた配慮がなされているが、更に関わる機会が増えると良いと思う。								
32	2学年の特別支援学級の生徒を中心に、積極的に声をかける事を意識している。今後も、自分から機会を作り、交流するようになっていきたい。								

					2学期末	1学期末	
33	学年・教科を越え、教員としての力量形成のための研修を進めている。	10	10	1	0	95%	91%
34	初任者、若手教員、栄養職員、養護教諭等の校内職員の研修に、積極的に関わり、人材育成に寄与している。	12	5	2	1	85%	77%
35	コーチングスキルを積極的に用い、生徒に自己決定させる場面を意図的に設けている。	6	13	2	0	90%	91%
36	ファシリテートに努力し、授業の中でワークショップ等の形態をとり、言語活動充実のための取り組みを行っている。	9	11	1	0	95%	90%
37	郷土の偉人や業績、地域の歴史を学ぶカリキュラムに基づき授業を実施し、小中(高)をつなぐ教育を進めようとしている。	9	7	4	1	76%	82%
38	小中一貫教育の推進向けに、小学校と連携し、小中一貫の考え方、方針等の共有化を図り、9年間を見通した教育を系統的・計画的に行おうとしている。	4	10	7	0	67%	68%

※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策

34	自分が初任者なので意識したことがなかった。
36	地域の歴史について、授業の中で触れることができなかつたので、まずは自分自身ももっと地域のことについて学び、様々な角度から地域と小・中をつなげられるように努力し、実践していきたいと思う。
36	特別支援学級内でも、郷土に対する興味を深め、レポートをまとめるなど工夫した。
36	今年も転入職員、新採者が多く、現段階ではコーチングもファシリテートも知らない仲間がいるのが現実。
37	全国学力・学習状況調査結果を活用したい。
37	市教委の方針が説明されたが、誰もが何をすべきなのか理解はできていない。上意下達でできることではないと考えている。
	小中一貫への動きが、まだわからないことが多い。
	研修の継続を! 小中一貫に関しては、まだピンとこない部分がある。やってみて、考え、改善していくことになると思う。

※2学期を終えて

33	空き時間を中心に、もっと積極的に他学年、他教科の授業や学級活動を見学に行ったり、自分の授業を見てもらえるようお願いしに行き、教員としての力量を伸ばしていきたい。
33	本校の校内研がまさに力量形成につながっている。その成果を普段から発揮し、自己研修にもつなげていきたい。
33	指導教諭から他の教員の授業を見る事とよく言われるが、実行できない。原因は、実験の片づけや仕事を空き時間にしてしまうことであるが、優先順位をつけたり、時間の使い方を工夫することで改善できるとも考えているが、なかなか実行できない。もっと意欲をもって計画的に考えることで、なんとか時間を見つけて実行していなくてはと思う。
34	若い先生が増えていく中で、自分がどのように声をかけたらよいのか戸惑うことがあるジェネレーションギャップを感じる。
34	他校では、こんなに研修をやらないときく。布佐中は本当に内容の濃い研修で勉強になる。また、ファシリテーターとしての教員の育成に力をいれていることが生徒の成長にも繋がってくると思う。
36	3年生の布佐カリキュラムは地域の方にたくさんお世話になり、生徒たちはとても良い学びができたようである。資料等がしっかり作られているので、布佐をあまり知らない教員であっても事前学習が成立する素晴らしいカリキュラムになっている。来年以降も前年の様子を引き継ぎ、つなげていくと良いと思う
36	実際に講師を招いて、我々が生徒役になって行う研修は楽しみながら気づかされることも多く、有意義なものとなっている。
37	関係職員のみしかやっていないのではないかな。
	なるべく生徒とのワークショップをとろうと努力しましたが、クラスによって差がありました。積極的に乗ってくるクラスと乗らないクラスがありました
	漢字練習の時にどうしても黒板に向かって授業を進めてしまうのを研修でアドバイスを受け、授業が始まる5分前に黒板に書いて置くことや、解答など生徒に書かせるなど工夫しました。
	研修部のおかげで学年などの枠を越えてできている。

					2学期末	1学期末	
39	学校教育目標の具現化に向けて、保護者・地域と連携を図り、教育活動の理解や参画を得るように努めている。	5	13	2	0	90%	91%
40	組織の円滑な運営のために、学年を越えて声を掛け合うなど、「つなぐ」意思疎通を図っている。	8	11	1	0	95%	95%
41	学年や学級の課題を明らかにし、改善するための工夫を行っている。	9	12	0	0	100%	95%
42	市予算の財務は、学校教育目標具現化に向けて適正執行されている。	7	9	4	0	80%	91%
43	HP・学校便り・学年だより・学級だより・保健だよりや給食だより、相談室だよりなど学校広報が進んでいる。	6	12	1	1	90%	95%

※1学期末における現状や2学期に向けての改善策・伸長策

40	学年の課題をまずは学年職員間で共通理解し、次に生徒たちに認識させ、学級会や学年集会を通して改善を行っている。課題を自ら子どもたちが気づくまでに時間がかかることが多いので、リーダーを中心に課題を見つけさせ、はやく改善できるよう指導していきたい。
40	オープンに話しができています。もっともっとみんなで考えられると良い。
42	HPをもっと活用できると、地域への発信がタイムリーにできると思う。
42	図書に対する興味関心のため、図書だよりなど発行していきたい。
42	学年便りが月初めに出されないことがあるが、保護者からの要求は大丈夫か心配である。
	HPや広報が昨年度よりも充実している。
	目標など多くなるとよく分からない状態になる。結局のところどうしたいのか、と。もう少し単純でよいのではとも思う。

※2学期を終えて

40	2学年の課題として、学習サイクルを定着させることがあげられる。このために部会を中心に様々な活動をしてきたが、活動を把握しきれなかったというのが正直な反省である。もっと生徒と密にコンタクトをとり、部会だけでなく学年全体で課題解決に向けて努力できるように指導をしたい。
40	学年の課題を生徒に気づかせるために、教員間で工夫している。しかし、生徒自身が課題を発見するまでに時間がかかるので、リーダーを中心にまわりに目を配るよう指導し、よりよい学年にするにはどうすれば良いか、常に考えさせていきたい。
41	予算に関しては、どうしても自分に関わる所にしか目が向かない、反省すべき点だと思います。
42	HPの更新
42	布佐中の「保健だより」は他校でも好評です。
42	「学級だより」という形式ではなく、面談や電話することで、生徒や学級のことを連絡している。
42	HPをもっと活用できると良い。

組織・学校情報の広報

- PDCAサイクルの中の「自己評価」の位置づけと活用を図るには…  
達成率(3.4評価の割合)が80%以下の項目についての改善策  
各分掌、学年、学級で具体的な取り組み改善計画の立案と実践
- 職員の「協働」のための大切なツールとしての活用  
各項目の評価と自由記述内容についての分析 活用  
こういう考えがある…こういう相違点がある、共通点は… 方向性の確認と実践